

まほろばだより

2022
March
vol.40

— Center for Diversity and Inclusion —

第40号

Contents

- Report 1 国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞
- Report 2 第11回女性研究者学術研究奨励賞
- Report 3 令和3年度FD・SD講演会
- Report 4 教職員の保育環境
- Report 5 支援員配置制度の効果



Report
1

病理診断学講座 内山 智子 助教が 国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました



▲ 内山 智子助教 ▲ 大林 千穂教授

ソロプチミスト日本財団では、様々な分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の活躍への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、当センターからの推薦により、本学病理診断学講座の内山智子助教が「睡眠時無呼吸症候群のインスリン抵抗性発現の分子機構の解明」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました。国際ソロプチミスト奈良—あすかの牧浦敬子会長からは、「子育てと仕事の両立は大変だと思いますが、今後益々のご活躍を期待しています。」と温かいエールが送られました。

大林千穂教授のご指導のもと、多忙な臨床業務に加え研究面でも成果を上げておられる内山先生ならびに病理診断学教室の皆さまに敬意を表したいと思います。

Report
2

第11回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

本学では、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等を目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。

3月4日に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、第11回女性研究者学術研究奨励賞は小児科学講座の古川晶子助教が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。

授賞式および受賞者による記念講演は、中島佐一学術研究奨励賞授賞式と同時開催の予定です。

【受賞者】 小児科学講座 助教 古川 晶子氏

【研究テーマ】 血友病 A に関する基礎的研究および
治療有効性評価法の確立



令和3年度FD・SD講演会 「不妊治療と仕事の両立について」Web開催(Teams)



2月2日に教育開発センター、人事課と共催でFD・SD講演会を開催しました。産婦人科学木村文則教授より「不妊治療と仕事の両立」についてご講演をいただき、その後、人事課木下信係長から不妊治療のための休暇新設状況等について報告がありました。録画視聴も含め170名のご参加、64名のアンケート回答がありました。

木村教授から妊娠成立のメカニズムや不妊症の原因・検査・治療についてわかりやすくご講演いただき、不妊治療と仕事を両立するためのアドバイスをいただきました(図1)。続いて木下係長から妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援のための措置の概要が紹介され、本学で令和4年4月から実施予定の不妊治療に特化した休暇の新設等について丁寧な説明がありました(図2)。

参加者からは「不妊治療の第一歩から学ぶことができ勉強になりました」、「仕事仲間の支えや休暇制度の大切さがわかりました」といった感想が寄せられました。女性研究者・医師支援センターでは、平成31年から不妊治療中の女性研究者に研究支援員を配置する等の研究支援を行っており、不妊治療中の職員からの相談にも応じています。当センターでは今後も人事課と協力し、さまざまなライフイベントと仕事が両立できるような職場環境の整備に尽力していきたいと思っております。



産婦人科学 木村 文則教授

図1

● これから妊娠を希望する方へのメッセージ ●

- 通常の性生活を行い2年が経過しても妊娠しない場合は、何らかの原因があると考えられます。
- 35歳以上は急速に妊娠する力が落ちるので、すぐに対応してください。
- 妊娠しない場合は、男性のパートナーと一緒に検査を受けてください。
- 不妊治療には、不妊原因の治療と妊娠する機会を増やす治療があります。
- 体外受精は大変有効な治療方法ですが、必ず成功するとは限りません。

● 不妊治療を受けている職員と一緒に働かれている方へのメッセージ ●

- 不妊症の患者さんは、原因を見つけるために多くの検査を受け、妊娠するまでに多大な労力と費用を費やしています。
- 妊娠したくてもできない方は、非常に辛い思いをされていることを理解してあげてください。
- 不妊治療を受けながら働いている同僚のことを、自分の配偶者や自身の身に置き換えて考えてください。

● 不妊治療と仕事の両立を可能にするためのお願い ●

上司の方へ

- 部下の現状を把握し、相談にのってあげてください。
- 不妊治療に関する制度も勉強して教えてあげてください。

当事者の方へ

- 不妊症は生殖器のごく一部の異常であることをよく理解し自分の身体に自信を失わないようにしましょう。
- 制度をうまく利用して、精神的・肉体的に楽な状況をつくり早く赤ちゃんを得ることにたどり着きましょう。



人事課 木下 信係長

図2

妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援のために講じる措置の概要

① 男性職員の育児休業取得の促進

- 子の出生後8週間以内に育児休業をしようとする場合の請求期限を2週間前まで(現行1月前まで)に短縮する。
- 育児参加のための休暇の対象期間を子が1歳に達する日まで(現行産後8週間を経過する日まで)に拡大する。

② 不妊治療のための休暇の新設

- 原則年5日(体外受精や顕微授精等の頻繁な通院が必要とされる治療を受ける場合は5日加算)、有給で新設
- 休暇の単位は1日または1時間とする。

令和4年4月1日より実施



教職員の保育環境について

本学には、令和3年5月現在で3,128人（男性1,178人、女性1,950人）の職員が勤務しています（図1）。これら教職員の子育て支援の一環として、0歳児から5歳児まで各年齢の定員25人、総定員150人の学内保育園（なかよし保育園）が整備されています。定員150人は、公立医科大学の中では最も大きな規模の学内保育園です。生後57日から就学前までの乳幼児を入園対象とし、開園時間は7時から20時、金曜日には夜間保育も実施しています。また、年度途中で復職や入職する教職員の保育ニーズに対応するため、4月1日以降も随時入園を受け付けています。令和3年4月1日時点の在籍園児は83人（図2）でしたが、年度末の令和4年3月1日には100人となっています。

（なかよし保育園HP <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/nakayoshihoikuen/index.html>）

なかよし保育園に通う園児の保護者の職種は多岐にわたっておりますが、中でも看護師や医師の子どもが多数在籍しています（図2）。本学職員満足度調査において、女性医師の過半数が産後1年未満での復職を希望しており、職場に近いなかよし保育園での0歳児保育の充実は、女性医師の就労継続にも大きな役割を果たしています。

病児・病後児保育に関しては、平成27年1月から民間医療機関（医療法人吉川医院）と連携し生後6か月から小学生を対象に実施しています。利用職員数や児童数は図3、図4のとおりです。新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、令和2年度ののべ児童数は大幅に減少しています。病児・病後児保育の詳細や利用を希望される方は、総務課（内線2226）にお問い合わせください。

なかよし保育園HP
QR



図1 公立大学法人奈良県立医科大学職員（R3.5.1現在）

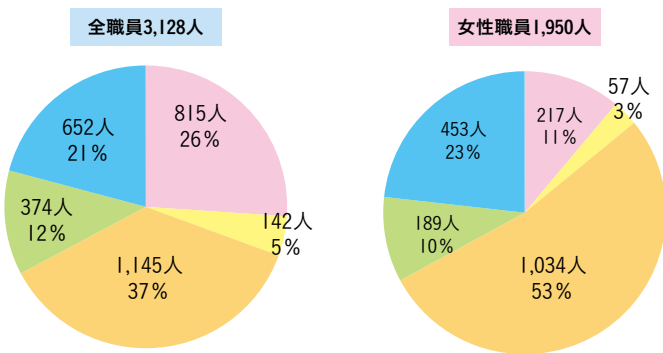
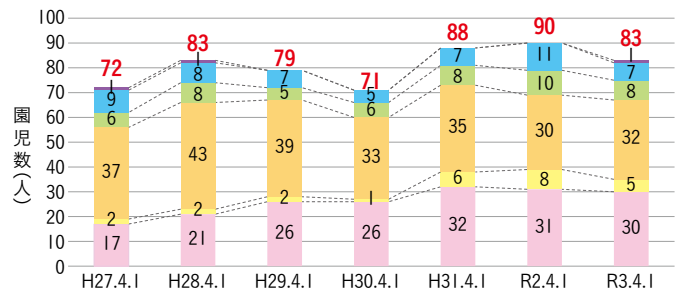


図2 なかよし保育園に在籍する全園児の保護者の職種内訳



※父母ともに本学職員・学生の場合、母親の職種で集計

: 医師・歯科医師等（臨床研修医、医員、臨床部門の教員）
 : 臨床部門以外の教員
 : 看護師・助産師
 : 医療技術職員
 : 事務・技術・看護補助職員等
 : 学生
 : 職種不明

図3 本学連携医療機関での病児・病後児保育の利用職員数

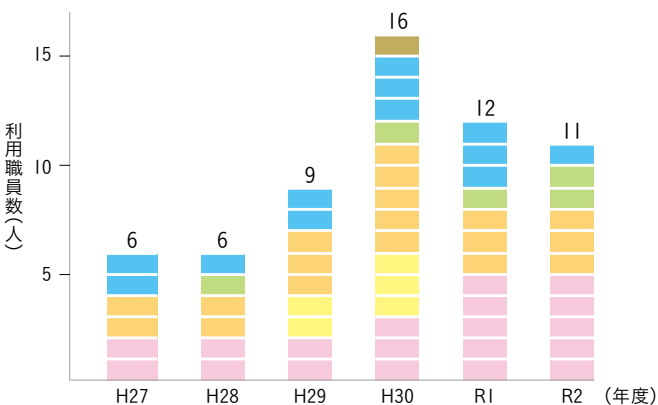
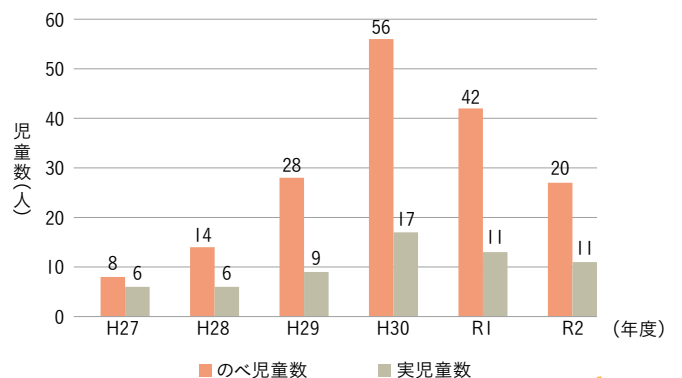


図4 本学連携医療機関で病児・病後児保育を利用した児童数





当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより一定期間、研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師に対し研究支援員を配置しています。現在は、病院助教1名、診療助教3名、臨床医学教育部門の教員6名、看護学科教員1名の合計11名が研究支援員配置制度を利用しています。

平成23年度より開始した本制度の実利用者は、令和3年9月までで21名となっています。これら21名の女性研究者・医師のうち、定年退職の1名を除く20名全員が、出産・育児等のライフイベントと研究を継続し、他学に転出した2名を除き18名が、現在も本学で研究を継続しています。また、支援員配置制度利用後に、11名の女性研究者・医師が昇進し、16名が研究代表者として科研費の獲得に至っています(図1)。

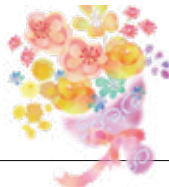
本制度は、利用者個人の就労継続や昇進、研究力向上に寄与すると同時に、本学が女性のライフイベントと研究の両立を積極的に支援していることを示す制度にもなっており、大学全体への波及効果は大きいと考えます。

図1 平成23年度から令和3年9月末までに研究支援員配置制度を利用した女性研究者・医師

| 部門 | No. | 職位 | | 配置申請理由 | 科研費採択 | | 配置後の状況 |
|-------------------|-----|-------|----------|-----------------|-------|-----------------|-------------------------------------|
| | | 配置申請時 | 配置申請後 | | 配置申請時 | 配置申請後 | |
| 基礎医学教育部門 教養教育・ | 1 | 講師 | | 育児 | ○ | 基盤研究(C) | |
| | 2 | 助教 | 講師昇任 | 育児 | × | 若手研究(B)、基盤研究(C) | |
| | 3 | 助教 | | 育児 | ○ | 基盤研究(C) | |
| | 4 | 助教 | | 育児 | ○ | 基盤研究(C) | 第2子出産後、復職 退職し他大学転出 |
| | 5 | 助教 | | 妊娠出産・育児 | ○ | 若手研究 | 第1子出産後、復職 |
| 臨床医学教育部門 | 6 | 助教 | 講師昇任 | 育児・介護看病 | × | 基盤研究(C) | |
| | 7 | 診療助教 | 助教採用 | 育児 | × | 若手研究 | 第2子出産後、復職 博士学位取得 |
| | 8 | 診療助教 | 助教採用 | 育児 | × | 若手研究(B)、基盤研究(C) | 第2子出産後、復職 退職し県内医療機関転出 本学非常勤講師 |
| | 9 | 診療助教 | 助教採用 | 育児 | × | × | 第2子出産後、復職 |
| | 10 | 診療助教 | | 妊娠出産・育児 | × | 若手研究 | 第2子出産後、復職 博士学位取得 |
| | 11 | 助教 | | 妊娠出産・育児 | × | × | 第2子出産後、復職 |
| | 12 | 診療助教 | 助教採用 | 育児 | ○ | 若手研究、基盤研究(C) | |
| | 13 | 診療助教 | 助教採用 | 育児 | × | × | 博士学位取得 |
| | 14 | 准教授 | | 育児 | × | × | |
| | 15 | 助教 | | 育児 | ○ | 若手研究 | |
| 看護学科 | 16 | 助教 | | 育児 | × | × | |
| | 17 | 准教授 | 教授発令 | 育児 | × | 基盤研究(C) | |
| | 18 | 准教授 | 教育教授称号付与 | 介護看病 | ○ | 基盤研究(C) | 定年退職 |
| | 19 | 助教 | 講師昇任 | 育児 | × | 挑戦的萌芽研究 | 退職し他大学転出 |
| | 20 | 助教 | 講師昇任 | 育児 | × | 基盤研究(C) | |
| | 21 | 講師 | | 不妊治療 妊娠出産・育児 | ○ | 若手研究 | 第1子妊娠後、出産 |

【編集後記】

今回のお便りにも掲載させていただいた病理診断学の大林千穂教授が3月末に退任されます。大林先生には当センターの運営委員をお務めいただき、ロールモデルとして授業や講演会でも学生等にお話をさせていただきました。大林先生の凛とした佇まい、仕事に対する厳しい姿勢、優しいお人柄から、私たちは大切なことをたくさん学ぶことができました。心より御礼申し上げます。どうぞ今後も本学の発展、女性の活躍をお見守りください。



【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

